



令和 3 年度学校運営委員会委員の状況 女性比率が向上

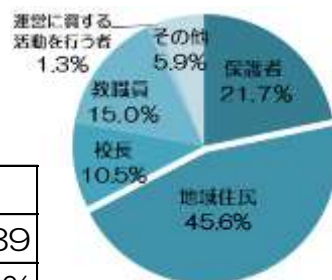
江別市では、委員の任期を 2 年、定数を 1 校につき 10 人以内と定めています。

平成 29 年 4 月にスタートしたえべつ型 CS は、5 年目を迎えています。今年 4 月に、新たに委嘱された委員は、25 校で 239 人です。

推薦分野別の人数とその割合 (%) を前回改選時 (平成 31 年) と比べてみます。

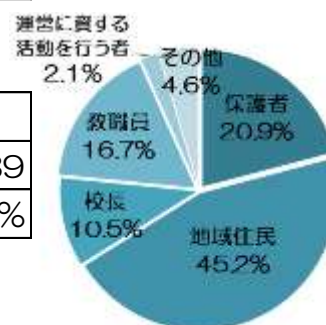
【令和 3 年の委員の状況】

推薦分野	保護者	地域住民	校長	教職員	運営に資する活動を行う者	その他	計
人数	52	109	25	36	3	14	239
%	21.7%	45.6%	10.5%	15.0%	1.3%	5.9%	100%



(参考) 【平成 31 年の委員の状況】

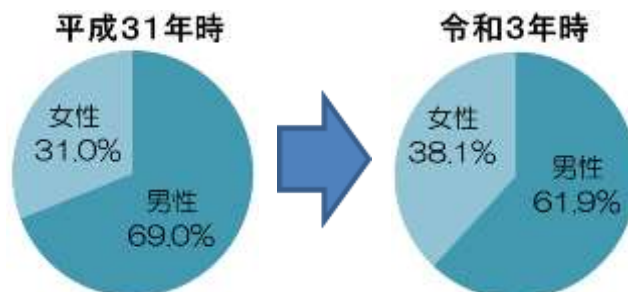
推薦分野	保護者	地域住民	校長	教職員	運営に資する活動を行う者	その他	計
人数	50	108	25	40	5	11	239
%	20.9%	45.2%	10.5%	16.7%	2.1%	4.6%	100%



「運営に資する活動を行う者」に該当する方は、3 人 (1.3%)

と少ないように見えますが、実際の推薦に当たっては、「保護者」や「地域住民」といった他の分野から推薦された方の中に「運営に資する活動を行う者」として重複して推薦された方 59 人が含まれており、その方々を含めると、62 人 (25.9%) となります。

また、16 号 (令和 2 年 10 月発行) でお知らせしましたが、「江別市男女共同参画を推進するための条例」の第 13 条で「委員数は、男女のいずれか一方が委員の総数の 4 割未満とならないよう努めること」とされていることから、各学校で委員の人選の際に委員の比率がいずれかに偏らないように配慮をお願いした結果、女性委員の割合が、前回改選時の 31.0% から、38.1% へと大きく向上しました。次回改選時には、条例の趣旨を踏まえた委員構成になるよう、引き続き、学校に働き掛けていきます。



今後も、継続して江別市における男女共同参画の取り組みを進め、学校と地域住民の協働による地域に開かれた信頼される学校づくりを目指していきます。

令和2年度学校評価の結果について

えべつ型コミュニティ・スクールの三つの機能の一つに「学校関係者評価の実施」があります。（学校関係者評価の制度は、平成21年度から始まっています。）

各学校から提出された結果をもとに、江別市全体の結果としてまとめましたので、紹介いたします。

1. 評価分野について

()内は令和元年度の数字

江別市では、「経営方針の重点」、「教育課程・学習指導」、「生徒指導」の3分野を必須としています。全校の平均は5.1(5.2)分野で、各校が自由選択した評価分野の主なものは、「健康安全指導」、「保護者・地域との連携」、「特別支援教育」、「道德教育」となっており、昨年度と同様の傾向でした。

- ・健康安全指導 12校(12校)
- ・保護者・地域との連携 12校(12校)
- ・特別支援教育 4校(4校)
- ・道德教育 4校(4校)

2. 自己評価の状況について

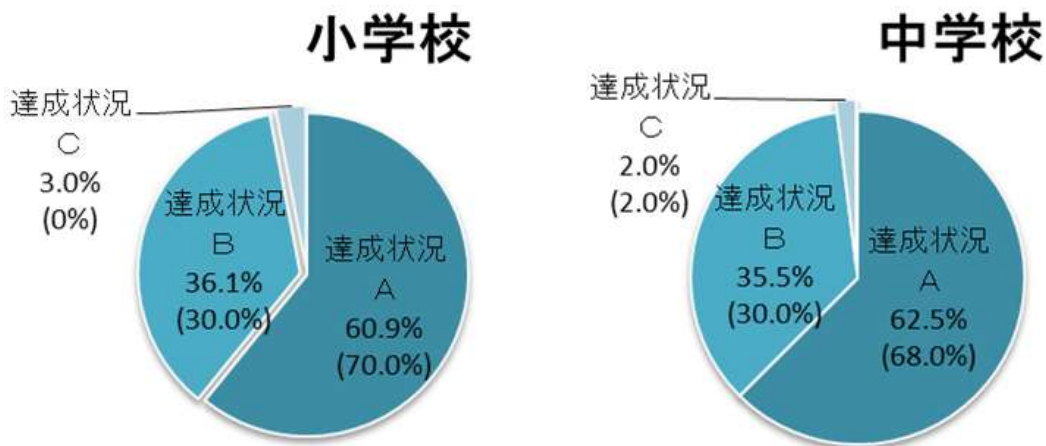
()内は令和元年度の数字

自己評価は、「A=よい、B=おおむねよい、C=ややよくない、D=よくない」の4段階で行っています。

昨年度と比べて、全評価項目のうちA評価の割合は、小学校は9.1ポイント減少し、A評価は60.9%、B評価は36.1%となり、中学校は5.5ポイント減少となり、A評価は62.5%、B評価は35.5%となっています。

【小学校】A60.9%(70.0%)、B36.1%(30.0%)、C3.0%(0%)

【中学校】A62.5%(68.0%)、B35.5%(30.0%)、C2.0%(2.0%)



3. 学校関係者評価で寄せられた意見について

意見総数は、小学校で81件、中学校で42件の計123件でした。

意見は、大別して

A) 評価の項目設定、評価の個別または全般に対するもの

B) 分野に関わる改善方策や日頃感じていること

などに分けることができ、A)は19件、B)は104件でした。B)は学校と地域・家庭との連携（開かれた学校）に関すること、児童・生徒への指導に関すること、教職員に関すること、教育課程・学習指導に関することなど、多岐にわたっています。